

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十八年三月度 入選句 (投稿総数二千五百九十五句・一般投句数六百三十六句)

特選 魚は氷に上るを待ちて旅心 大垣市 安部 芳枝

七十二候のひとつ、初春の季語、節分も何日かすぎて徐々に春の日差しを感じられる昼下がり、野に草萌える頃になったらと、あれこれ遊びや旅の計画など、春を待ちわびる心はずむ日々。

小流れに古里のこゑ青き踏む 安八郡神戸町 高橋 泰

春めく日の昼下がり、小さな流れに沿って歩く、浅瀬を行く水音に過ぎ去った日々の事など思いながら、岸辺に萌え始めた草の色を楽しみつつ散歩する穏やかな日々。

ほころびを一針とめて雛納め 大垣市 秋山 くに子

二月に入るのを待ちかねてお雛様を飾る、早春の風や光を浴びて眩しそうな様子のお雛様、三月三日を過ぎれば早々に雛納め、また来年の春逢えますようにと薄紙に包んで納めながら、ふと小さなほころびに気がついてつくろう、雛祭りの頃の楽しさ優しさ。

秀逸

臘梅の匂ひこぼるる朝の道 揖斐郡揖斐川町 栗野 みねお

研ぎたての鍬と照り合ひ春の土 安八郡神戸町 高橋 泰

日脚伸ぶ早や夕刊の届く音 安八郡神戸町 高橋 日出美

早春の川面ひかれり一夜城 安八郡輪之内町 野村 照子

円塚の鳥語さわぐや竹の秋 大垣市 村田 通夫

春光へ雀翔つことためらはず 大垣市 野村 多佳子

日に遊ぶ春のせきれい小走りに 大垣市 尾関 逸子

魚は氷に水かげろへる橋の桁 大垣市 佐藤 すみ子

田に残る足あと深き薄氷 滋賀県東近江市 西村 いよ子

歌声の満ちて響きて卒業す 大垣市 小林 研

入選

薄氷へ日射しとどける光りかな
赤はまた決断のいろ落椿
白扇を膝で鳴らして初稽古
梅咲くや芭蕉の句碑の見える
瓔珞をひとつ失くして雛古ぶ
もやい舟春一番に離れけり
放棄田の又ひとつ増えいぬふぐり
早春の 糸谷 に水車のかるき音
幸を呼ぶは何色いぬふぐり

愛知県名古屋市	小松	とみゑ
福井県福井市	三ツ山	ひろし
不破郡垂井町	内海	白涛
大垣市	安福	けい子
岐阜市	木田	由美
京都府城陽市	古根	洋子
大垣市	大西	誠一
不破郡垂井町	児玉	信子
大垣市	棚橋	みさを

入選

寒椿米寿の母に色そえる
宿題に朱書きの奔る春隣
沈丁の香りもろともたたむ傘
梅咲きて闇やはらかき古刹かな
菜の花やオムレツふはり焼き上がる
うすらひをわりてをさなき子にもどり
風生れて野火の走りを早めけり
耕人の胸ポケットの電話鳴る
電飾の余寒の駅や北出口

大垣市	清水	郁子
大垣市	小林	研
愛知県名古屋市	舘野	茂子
不破郡垂井町	中嶋	笑子
大垣市	名和	よちゑ
不破郡垂井町	川瀬	慶泉
大垣市	日比野	友子
兵庫県神戸市	岸下	庄二
東京都小平市	清水	龍臣

選者吟

揚げ雲雀いつまでも空どこまでも

かつら